

いろいろな方々にお使いいただいている最適なポジションについて

リクライニング ポジション



ベッド上座位
起居動作

●パーキンソン病

ベッドのリクライニング調整を自ら行い、好みの角度に調整でき、痛みが緩和されました（70代・男性・要介護2）

●起立性低血圧症

起き上がり時の急激な血圧低下を避けるため、緩やかに背上げ動作ができ腹圧もなく安全・安楽です（40代・男性）

●ALS(筋萎縮性側索硬化症)

寝姿勢から端座位がとれなかったが自分でボタンを操作し、起き上がることができました（40代・男性・要介護2）

●腰痛

脚上げ時に臀部より踵部が下がり、腹部の圧迫が軽減できており、サイドアップ機能により寝姿勢が安定（50代・男性）

●腰椎圧迫骨折

身体をねじらせたりせずに座位姿勢がとれるので、ベッド上での生活が楽になりました（70代・男性・要介護3）

●脊椎損傷

シーティングポジションで背上げと座面角度が調整できるので誤嚥リスクが軽減できました（60代・男性・要介護2）

●脳血管障害

早期に立つ感覚を取り戻すために、このベッドを利用することで患者も介助者も負担なく安心して高座位を保持することができます（20代・女性・PT）



座位
食事介助
リハビリ
座位確保

シーティング ポジション



●脊柱管狭窄症

シーティングポジションのおかげで食事を座位姿勢で摂れるようになりました（80代・男性・要介護2）

●後遺症による半身麻痺

身体を無理に起こそうとしなくてよい、負担の軽減が来ています（70代・女性・介護職）

スタンディング ポジション



●関節リウマチ

身体を屈曲させずに歩行器に移乗させやすくなった。介護者の腰痛予防にも効果が高いと実感しました（60代・男性・介護職）

●変形性膝関節症

くるっとサポート手すりの形が大きく、握りやすく、両手で使用でき、一人でスムーズに立ち上がり出来ました（70代・男性・要介護2）

●認知症

一連の動作でスタンディングポジションまで操作できるので本人に立つ意欲がなくても介助・看護の負担を軽減し、容易に行えます（60代・女性・介護職）

●末期がん

ベッド上で寝たきりにならず自力で立ち上がりトイレに向かう気持ちが芽生え、家族の励みになった。他のベッドでは実現できなかった（40代・女性・家族）

●コロナ禍での非接触看護・介護

コロナ禍でもスタンディングポジションまで利用者に触れずに看護・介護が行えるため、安全・安心です（50代・女性・看護師）



立ち上がり
移乗動作

(車椅子・リフト

・ポータブルトイレ)

立ち上がり動作

(歩行器・杖・手すり)